

しまね 11月定例会 県議会だより

島根県議会平成27年11月定例会は、11月24日から12月18日までの15日間開催されました。初日、糸原議長は冒頭のあいさつで、溝口知事とともに、国対し平成28年度政府予算編成等に係る重点要望として、地方財政の充実強化や地方創生・人口減少対策の推進、PPP合意内容の国民への丁寧な説明と本県農業への支援策等について要望したと述べました。また、今定例会では、37件の知事提出議案と、437件の議員提出議案が可決等されました。

島根県中小企業・小規模企業振興条例を全会一致で可決

議員から提案された2件の意見書を可決しました

- ①JR三江線について国の責任ある対応を求める意見書
 - ②森林吸収源対策の財源確保を求める意見書
- ※意見書の全文は、島根県議会ホームページ (<http://www.pref.shimane.lg.jp/gikai/>) で見るすることができます。

◆11月定例会で可決等された議案

- 知事提出議案(37件)
◇平成27年度一般会計補正予算案など予算案(11件)
◇条例案(13件)
◇行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例▽その他12件
◇一般計案(13件)
◇公立大学法人島根県立大学が徴収する料金の上限について▽その他12件
議員提出議案(4件)
◇条例案(2件)
◇島根県中小企業・小規模企業振興条例▽その他1件
◇意見書(2件)
◇JR三江線について国の責任ある対応を求める意見書▽その他1件

◆11月補正予算の概要
人事委員会助金に基づき給与費9億円が計上されました。

11月補正後の一般会計予算額は5349億円となります。

一般質問は、岡本昭二、山根成二、平谷昭吉、野和彦、浅野俊雄、藤原常義、大國陽介、岩田浩岳、成相安信、山本蒼、高見康裕の11名の議員一問一答質問は、生越俊一、須山隆、池田一、尾村利成、遠藤力一、園山繁、田中明美、加藤真、白石恵子、角智子、吉田雅紀、高橋雅彦、和田章一郎の13名の議員によって行われました。

島根県中小企業・小規模企業振興条例を制定

島根県において、中小企業・小規模企業は、地域経済や雇用を支え、地域の発展と県民生活の向上に大きく貢献しています。しかし、その経営環境は年々厳しくなっています。このたび、地域社会全体で中小企業等を支援するために条例を制定し、中小企業等振興の基本理念や県の責務等を定めました。これを契機として、中小企業等が地域資源等を活用した新たな取り組みに挑戦し、将来への希望を持って事業展開することにより、本県経済の発展及び雇用の場の創出が図られ、県民生活向上の基となることを大いに期待するところです。

一般質問

中山間地域での農業維持について

【問】現在、新たな農林水産業・農山漁村活性化計画第3期戦略プランの策定中であるが、地域の担い手不足により厳しい状況にある、中山間地域の農業・農村が生き残っていくための具体的な方について伺う。
【答】集落営農の組織化と直接支払制度の活用促進、また地域の实情に合った計画的な基盤整備などを進めるため、第3期戦略プランについて伺う。

三江線の問題に対する基本的な考え方は

(知事 沿線市町の考えを聞き、相談しながら適切に対応していく)

中小企業支援策について

【問】中小企業・小規模企業は年々減少しており、地域経済活性化のために、厳しい経営を余儀なくされている企業への支援強化を図る必要がある。それには県や商工団体など関係機関が十分に連携する必要があると考えるがどうか。
【答】成立した中小企業・小規模企業振興条例の趣旨を踏まえ、創業及び新事業の創出促進、円滑な事業承継、人材育成など関係機関と連携を密にして取り組んでいく。

企業誘致後のフォローのための努力は

(知事 経営者と懇談する機会を設けて情報収集していく)

一問一答

【問】平成31年度までの5力年、県民の間に具体的な成果を出すという意気込みを伺う。
【答】総合戦略では、長期的に県の人口減少を止めていくために、2040年までに合計特殊出生率の2.07までの回復と社会移動の均衡を目標に掲げ、その達成のため、今後5年間で7,000人の雇用創出と合計特殊出生率の1.7までの回復を計画しており、これに向

米の概算金が175円/kgと安い状況にもかかわらず、国は生産量止の方針である。大型農家政策が安定するまで、強力に指導するよう国に要望すべきと考えるがどうか。
【答】米の需給と価格の安定が図られるよう、飼料用米に対する直接支払交付金制度の継続等、国に対して引き続き要望する。

【問】武蔵野市は、都市と地方が互いに失いつつあるのを補い、共存していく先進的な都市間交流を行っている。同市との継続的かつ効果的なPR、来県者の増加、県産品消費拡大等につながると思うがどうか。
【答】同市は、交通の利便性が高く、購買力や比較的高い魅力的な商圏、事業者に対する情報提供や県産品のマーケティング等、できるだけ支援していきたい。

【問】働きながら子育てできる家庭にとって、病児・病後児保育について
【答】県は、子育て支援の観点から、病児・病後児保育の必要性を認識している。県民が安心して子育てができるよう、市町村と連携し、病児・病後児保育の拡充を目指す。

【問】山と耕地と海を豊かにし、島根を元気にするため、地域外に打てる高収入の認定農業者の育成が大切である一方、総合的に農漁村を守るという視点について考えを伺う。
【答】人口減少が進む中、農山村を存続するため、認定農業者の育成を推進し、地域内外の連携を強化し、農業者の所得向上を図る。

【問】山と耕地と海を豊かにし、島根を元気にするため、地域外に打てる高収入の認定農業者の育成が大切である一方、総合的に農漁村を守るという視点について考えを伺う。
【答】人口減少が進む中、農山村を存続するため、認定農業者の育成を推進し、地域内外の連携を強化し、農業者の所得向上を図る。

【問】県は、子育て支援の観点から、病児・病後児保育の必要性を認識している。県民が安心して子育てができるよう、市町村と連携し、病児・病後児保育の拡充を目指す。

【問】県は、子育て支援の観点から、病児・病後児保育の必要性を認識している。県民が安心して子育てができるよう、市町村と連携し、病児・病後児保育の拡充を目指す。

【問】県は、子育て支援の観点から、病児・病後児保育の必要性を認識している。県民が安心して子育てができるよう、市町村と連携し、病児・病後児保育の拡充を目指す。

【問】県は、子育て支援の観点から、病児・病後児保育の必要性を認識している。県民が安心して子育てができるよう、市町村と連携し、病児・病後児保育の拡充を目指す。

【問】県は、子育て支援の観点から、病児・病後児保育の必要性を認識している。県民が安心して子育てができるよう、市町村と連携し、病児・病後児保育の拡充を目指す。

【問】県は、子育て支援の観点から、病児・病後児保育の必要性を認識している。県民が安心して子育てができるよう、市町村と連携し、病児・病後児保育の拡充を目指す。

【問】県は、子育て支援の観点から、病児・病後児保育の必要性を認識している。県民が安心して子育てができるよう、市町村と連携し、病児・病後児保育の拡充を目指す。

【問】県は、子育て支援の観点から、病児・病後児保育の必要性を認識している。県民が安心して子育てができるよう、市町村と連携し、病児・病後児保育の拡充を目指す。

【問】県は、子育て支援の観点から、病児・病後児保育の必要性を認識している。県民が安心して子育てができるよう、市町村と連携し、病児・病後児保育の拡充を目指す。

【問】県は、子育て支援の観点から、病児・病後児保育の必要性を認識している。県民が安心して子育てができるよう、市町村と連携し、病児・病後児保育の拡充を目指す。

【問】県は、子育て支援の観点から、病児・病後児保育の必要性を認識している。県民が安心して子育てができるよう、市町村と連携し、病児・病後児保育の拡充を目指す。

【問】県は、子育て支援の観点から、病児・病後児保育の必要性を認識している。県民が安心して子育てができるよう、市町村と連携し、病児・病後児保育の拡充を目指す。

【問】県は、子育て支援の観点から、病児・病後児保育の必要性を認識している。県民が安心して子育てができるよう、市町村と連携し、病児・病後児保育の拡充を目指す。

【問】県は、子育て支援の観点から、病児・病後児保育の必要性を認識している。県民が安心して子育てができるよう、市町村と連携し、病児・病後児保育の拡充を目指す。

【問】県は、子育て支援の観点から、病児・病後児保育の必要性を認識している。県民が安心して子育てができるよう、市町村と連携し、病児・病後児保育の拡充を目指す。